

# 様々なプロジェクトディレクターの活動

## あおりグリーン&ライフ・シナジー イノベーション創出エリア (青森県全域)



プロジェクトディレクター  
阿部 馨

私は北海道の出身です。弘前大学理学部に入學して以来、青森県に在住しています。プロジェクトディレクターには、前事業で研究統括を任せられ、事業運営も任せられていた関係で、就任しました。

青森県の強みは高度な糖質研究者が多いことで、弘前大学の医学部に蓄積された知的財産は世界的なものだと確信しております。糖質研究者らにより、鮭由来プロテオグリカンの素材化が達成され、多くの美容健康商品が発売されるに至りました。当事業は、我々が望むと望まざるとは関係なく、次のステップに明らかに入りました。それは「プロテオグリカン医薬」及び「国際化」などです。進捗は恐ろしく早く、準備していた組織では対応困難である場合もあり、組織変更が迫られています。

しかし、広く連携し、県外の素晴らしい賢者、企業の方、県内の意欲的な関係者とともに現時点の答えを求め、短時間に実行するつもりです。地方にはそれが最良の手段だと考えるからです。



## 知と医療機器創生宮城県エリア



プロジェクトディレクター  
後藤 順一

現在、「医工連携」は広く使われていますが、20年以上前にその成果を実証するベット19床の診療所が産学官金の連携により宮城県に設立されたことを知る方は少ないでしょう。先駆的な取組に地域の期待が寄せられたのですが、残念なことに、当初の目的である機能的電気刺激による治療とは異なる事情で10年後に閉鎖・撤退することになり、宮城県における医療機器開発は大きく立ち遅れてしまいました。地域企業さんも影響

を受け、医療機器製造参入には躊躇することとなりました。こうしたなか、東日本大震災からの復興・再生・発展に向け、医療機器の継続的な創出を目指す「知と医療機器創生宮城県エリア」のプロジェクトがスタートしました。3年目の平成26年7月に企画した「みやぎ医療機器創生産学官金連携フェア」には企業さんを中心とする500名の参加があり、地域の熱意に感激し、知のネットワークメンバー、地域コーディネータの地道な活動に感謝です。これを忘れず、地域創生を目指し、医療機器創生拠点構築の礎を築いてゆきたいと思っております。



## やまなし次世代環境・健康産業創出エリア



プロジェクトディレクター  
清水 義富

私は(公財)やまなし産業支援機構の職務の一環としてプロジェクトディレクターを務めています。山梨県は、日本一の日照時間、豊富な水と急峻な河川、豊かな森林を有し、太陽光、小水力、バイオマスなどの自然エネルギーの宝庫であることから、地産エネルギーを活用した電力ネットワーク構成技術の開発と事業化に取り組んでいます。プロジェクトは研究開発でよくいわれる「魔の川」、「死の谷」、「ダーウィンの海」の関門に対し、事業化段階に進めるかどうかの関門である「死の谷」に直面しています。事業化段階となると、それまでの開発段階と比べて資源投入の規模は多大となり、関門克服の難しさを改めて痛感しています。そもそも研究開発は、一つの技術で製品が完成するわけではなく、他にある技術とも組み合わせ共に新たな努力を傾けようという価値観の共有が不可欠です。そのために産学官金が連携して取り組んでいますが、従来の連携の域を超えた「真の連携」、「機能する連携」に向けたネットワーク構築の正念場を迎えています。

しかし、広く連携し、県外の素晴らしい賢者、企業の方、県内の意欲的な関係者とともに現時点の答えを求め、短時間に実行するつもりです。地方にはそれが最良の手段だと考えるからです。



## くまもと有機エレクトロニクス連携エリア



プロジェクトディレクター  
河北 隆生

私は、熊本県産業技術センターで地域企業の技術力強化等の支援に長年従事し、現在はくまもと産業支援財団で、当プログラムのプロジェクトディレクターとして、将来が期待されている有機エレクトロニクス関連の研究開発及びその普及、そして人材育成等の事業を統括しています。

ところで、当地域は「くまもと」地域と称してはいますが、実際は北部九州を含む広域的な地域を指しております。この地域の強みとして、半導体関連等の製造・評価装置企業の集積、地域の大学等が持つ有機材料技術の蓄積、さらには有機ELデバイスの研究開発・製造等に携わる企業の立地が挙げられます。

特に私が力を入れているのが、招へい研究員の研究成果を多くの地域企業へ移転すること、そして企業間の連携による事業化の二点です。

困難な課題も数多くありますが、私たち当プログラムに携わるスタッフや関係機関が一丸となって、これら「事業化」に向けた取り組みを今後も積極的に進め、有機エレクトロニクスを“地域の次世代リーディング産業”に育成していきたいと考えています。

